

巻 頭 言

環境保全のすすめ

社長 井村健輔



ミレニアムにさしかかり、二十世紀をふり返ってみると、人類社会が大きな成長を遂げた時代であったといえます。とりわけ先進国の経済発展が大きかったわけですが、その成長はエネルギー消費によって支えられてきたという面があります。先進国の生活レベルは豊かになり成熟化した反面、大量エネルギー消費は環境に対しては大きな負の効果をもたらすことがわかってまいりました。たとえば、工場や自動車の排気ガスによる大気汚染であり、洗浄、冷媒、化学合成等に用いられる化学物質による水や土壌汚染であります。さらに今世紀の後半に入って発展途上国が経済成長期に入ってまいりました。

資源の面から見ると、経済成長に伴い1960年頃には石油の枯渇が心配され、70年代に入って石油危機を迎えたことから、省エネルギー・省資源が求められ、このことが軽薄短小というニーズを生み技術革新を促したわけです。90年代に入って国際化が進み、情報通信が急速に発達し、地球が時間距離で狭くなることと比例して、地球温暖化という新しい脅威が顕在化してまいりました。

これらの問題に対して、現在、世界規模でその対策について議論されており、我々にも昨年12月に京都で開催された地球温暖化防止第3回締結国会議 COP-3でなじみとなりました。このように環境保全が世界の潮流となり、我々企業も次の世代を守るため環境対策を推進していかなければなりません。

ナチ不二越と致しましては、1993年にボランタリープランを策定し、産業廃棄物を同年の排出量に対して2000年に50%削減する目標を設定しました。同時に環境問題を総合的に推進するための環境委員会を設置し、フロン全廃や廃棄物のリサイクル化、省エネルギーなどに向けて積極的にとり組んできました。

そして、市場の要請に応じて、当社は工具・工作機械メーカーとして、環境対応の機械・工具の開発に取り組んでいます。その一つがクーラントそのものを使わない、または、使用量を抑えた加工法、すなわちドライカットであり、ドリル、エンドミル、ホブ、ブローチなどの切削加工分野についてドライカット対応を進めております。

また、廃棄物のリサイクル化活動の中から、切削・研削用クーラント廃液をバクテリアを用いて処理する技術を開発し、社内のクーラント廃液の処理に用いるとともに、新商品「バイオフィン」として市場に送り出しています。

一方、オゾン層破壊を防止するため、フロンやエタンの規制が行なわれてきましたが、これらに対しても、当社は炭化水素系洗浄剤を用いる真空脱脂洗浄装置を開発し、顧客から高い評価をいただいております。また、クリーンな作業環境をめざした省エネルギー型の熱処理装置の開発を進めております。

このようにナチ不二越は、会社としての環境対策を進めるとともに、顧客の環境保全問題に対して貢献できるソフトとハードを提供してまいります。そして、「ものづくりの世界に貢献する」という経営ヴィジョンの具現にあたって地球環境問題をつよく意識して事業展開をはかってまいります。